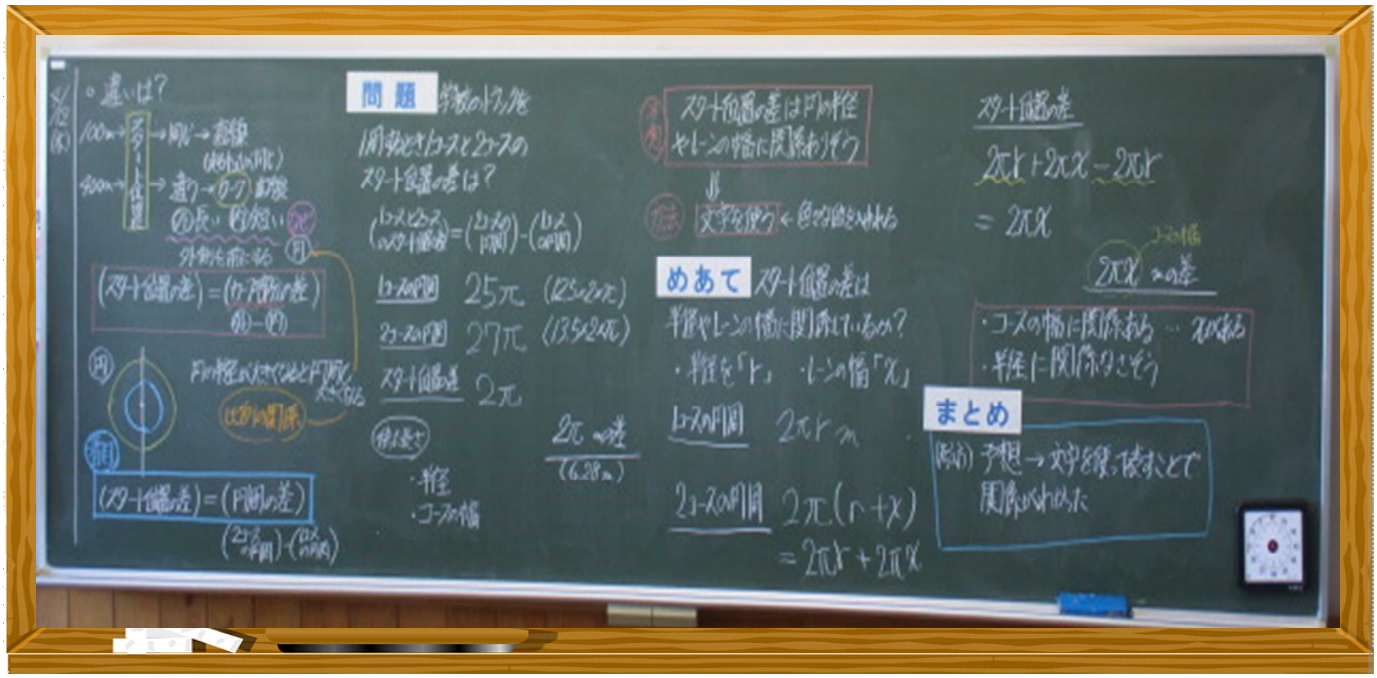
授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!!

西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

平成30年4月20日（金）
西　部　教　育　事　務　所

４月１２日（木）、高知の授業づくり改革プラン『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践授業及び『学力向上推進対策事業』授業づくり講座が、いよいよスタートしました。

『西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ』をテーマに、西部管内では年間１４本の授業研究会が用意されています。次期学習指導要領を見据えた「わかる」「できる」算数・数学の授業づくりを目指して、授業者も参加者も、自ら学び、高まり、広げることができる『学び場』にしていきましょう！



今回の授業

四万十市立中村中学校　　２年「式と計算」　　松岡教諭

トラック競技という日常事象から､「スタートの位置の差がトラックのどの部分の差になっているのか」という数量の関係に着目させ、その差が同心円の円周の差であることに気づかせていくために、日常事象から数学の舞台に乗せるまでのプロセスを丁寧に展開していき、定式化を図り、文字の有用性に気付かせる授業でした。

型に拘泥しない、新しい算数・数学の授業づくりを中村中学校がチームとして練り合い、研究を深めていく姿勢が伝わってくる提案性の高い授業でした。

授業者の声

現実の世界を数学化するときの見方や、文字を使って表現し、その結果を読み取ることで仕組みが分かるという考え方の部分を大切に、教科会で検討しました。協議では、付けたい力を付けるために考えさせる事とやらせきる事のバランスを考えて授業を展開していく事の難しさと大切さを学びました。求められている資質・能力を身に付けさせられるように、これからも教科会で確認し合いながら、新学習指導要領で求められている授業づくりに取り組んでいきます。

参会者の声

日常の事象を数学化することに力を入れていて、自分がなかなかできていないので、とても参考になった。また、生徒が興味を持つもので導入を行い、疑問・関心を持たせることが大事である。疑問や課題を教師が与えるのではなく、生徒から引き出すという点が参考になった。

（中部管内　　Ａ教諭）

参会者の声

新学習指導要領をかなり意識され、指導案が作成されていたため勉強になった。日常のことを数学に落とし込むことを、どのように具体的に授業展開に持って行ったらよいかの例として、勉強になった。これから学校に戻り、早速明日からの授業で自分なりにやってみたい。

（東部管内　　Ｃ教諭）

参会者の声

新学習指導要領の趣旨に則った「見方・考え方」の授業をどのように行うのか期待して参加した。授業者の先生が何をやりたかったかがよくわかる授業だった。授業改善に向けて工夫されていること、教材研究に真摯に取り組まれていることがよくわかった。

（中部管内　　Ｂ教諭）

参会者の声

授業を変えなければと思いました。授業スタンダードと能力ベイスの授業の融合させていくことが必要だと感じました。数学の定式化へのプロセスを丁寧に描き、統合化するところまでを１時間の中で行える工夫をしていきたい。

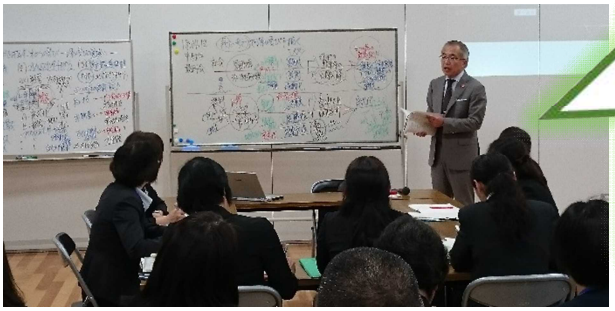
（西部管内　　Ｄ教諭）

生徒の声

最初は半径やコース幅に関係していると思ったけど、コースの幅しか関係ないことを知ってびっくりした。

生徒の声

分からないことでも文字に置き換えたら分かるし、文字が増えても分配法則を使って解けることが分かった。



最後には、教科長会を開き、午前中の通覧リフレクションが行われました。協議では教科共通課題として出された「生徒の思考と教師の文脈の差をどうなくしていくか」について意見交換がなされ、「教科ならではの見方・考え方をどう働かせるのか」、「定式化のプロセスをどう描くか」など、齊藤先生からたくさんの助言をいただきました。

「今月の学び場」のお知らせ

4月23日（月）　清水中教材研究会（9:35～）　　片島中教材研究会（14:30～）
4月25日（水）　具同小教材研究会（15:30～）

ぜひ、参加してみてください！